

(別記)

持続性の高い農業生産方式の定義について

土壌の性質に由来する農地の生産力の維持増進、その他良好な営農環境の確保に資すると認められる合理的な農業の生産方式であって、和歌山県みどりの食料システム基本計画で定めた(1)たい肥等施用による土づくり技術、(2)化学肥料低減技術、(3)化学農薬低減技術の3つの技術のうち、下記具体的技術の中から最低1つ以上ずつ選択し、3つの技術すべてを導入した生産方式とする。

○持続性の高い農業生産方式を構成する技術の内容

(1) たい肥等施用による土づくり技術

①たい肥等有機質資材施用技術	土壌診断を行い、良質なたい肥などを施用する。
②緑肥作物利用技術	土壌診断を行い、レンゲなどの緑肥作物を栽培して農地にすき込む。
③その他土づくりに資すると県が認める技術	

(2) 化学肥料低減技術

①局所施肥技術	作物が利用しやすい場所に集中的に肥料を施用する。
②肥効調節型肥料施用技術	肥料成分の溶け出す速度を調節した化学肥料を施用する。
③有機質肥料施用技術	有機質肥料を化学肥料に代替して使用する。
④その他化学肥料低減に資すると県が認める技術	

(3) 化学農薬低減技術

①温湯種子消毒技術	種子を温湯に浸すことにより、有害動植物を駆除する。
②機械除草技術	機械的方法により雑草を駆除する。
③除草用動物利用技術	アイガモ、コイなどによって雑草を駆除する。

④土着天敵利用技術	天敵温存植物の植栽、天敵に悪影響の少ない殺虫剤の選択等によって土着天敵の定着や増殖を促す。
⑤生物農薬利用技術	農薬取締法上の天敵で登録を受けたものを利用する。
⑥対抗植物利用技術	土壌中の有害動植物を駆除またはまん延を防止する植物を栽培する。
⑦抵抗性品種栽培・台木利用技術	抵抗性品種の栽培や抵抗性台木を利用する。
⑧土壌還元消毒技術	土壌中の酸素の濃度を低下させることにより、土壌中の有害動植物を駆除する。
⑨熱利用土壌消毒技術	土壌に熱を加えて温度を上昇させ、土壌中の有害動植物を駆除する。
⑩光利用技術	シルバーフィルムや粘着資材、黄色灯等により、害虫を誘引、忌避させる。
⑪被覆栽培技術	有害動植物の付着を防止するための資材で農作物を被覆する。
⑫フェロモン剤利用技術	昆虫のフェロモン作用を有する薬剤を利用して、トラップで捕殺したり交信をかく乱したりする。
⑬マルチ栽培技術	土壌の表面を有害動植物のまん延を防止するための資材で覆う。
⑭天然物質由来農薬利用	有機農産物の日本農林規格別表 2 に掲げる農薬を利用する。
⑮その他化学農薬低減に資すると県が認める技術	